

(様式3)

## 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成27年1月20日

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0870301108		
法人名	株式会社 長寿館		
事業所名	グループホーム 永国長寿館	ユニット名	西棟
所在地	〒300-0817 茨城県土浦市永国1048-1		
自己評価作成日	平成26年6月30日	評価結果 市町村受理日	平成27年1月19日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kihon=true&amp;JigyosyoCd=0870301108-00&amp;PrefCd=08&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kihon=true&amp;JigyosyoCd=0870301108-00&amp;PrefCd=08&amp;VersionCd=022</a>
-----------------	---

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成26年8月25日	評価機関 決 済 日	平成26年12月25日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>事業所が国道に面し飲食店や商店が多く、利用者の外出等に利用出来る。 協力医療機関からの往診が有り、看護師との医療連携体制を24時間取っている。 居宅支援事業所や関連事業所との連携で利用者の入退去の調整が行い易い。</p> <p>管理者と職員は「地域密着をめざし“ゆっくり・楽しく・一緒に”認めあう生活を築く」との理念の実践に努め、利用者に笑顔と優しさ、思いやり気持ちを持ちながら利用者本位の支援をしている。健康管理は協力医療機関との医療連携が図られ24時間対応になっており、急変時にも対応が可能であり、利用者、家族等の安心に繋がっている。</p>
--

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>管理者と職員は「地域密着をめざし“ゆっくり・楽しく・一緒に”認めあう生活を築く」との理念の実践に努め、利用者に笑顔と優しさ、思いやりの気持ちを持って利用者本位の支援をしている。 協力医療機関との連携が図られており、24時間対応になっているため急変時にも対応が可能であり、利用者や家族等の安心につながっている。</p>
---

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を館内に掲示。 災害対策での協力や地域行事への参加等で地域との連携を目指す。	管理者と職員が話し合って「地域密着をめざし“ゆっくり・楽しく・一緒に”認めあう生活を築く」との地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を作成し、各ユニットの居間と事務室に掲示するとともに、職員は毎朝の申し送り時に唱和して共有し、実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域から慰問のボランティアの来所、推進会議で地区の方と話し合い等を行う。 防災訓練の際は地域の方に参加して頂く。 地域の防災計画が整い次第、地区の防災訓練に事業所の職員も参加する予定である。 毎週1回、職員が周辺の地域のゴミ拾い等のボランティア活動を自主的にやっている。	事業所は町内会に加入し、利用者と職員と一緒に地域主催の夏祭りや芋煮会に出かけている。 近隣の小学生や中学生の体験学習のほか、月1回の傾聴や大正琴、民謡、地元婦人会による紙芝居等のさまざまなボランティアを受け入れている。 同一法人全体の夏祭りやバーベキューには、区長や民生委員を通じて地域住民を招待して参加を得ている。 週1回から2回主に男性職員が町内の清掃活動を自発的に行い、地域との交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	傾聴ボランティアが月1回来所。 社会福祉協議会から介護相談員が月1回来所。 運営推進会議を利用して認知症介護の様子を伝えて認知症への理解を地域住民に図る。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議を実施。 イベントや入退去情報、職員の入替わり等事業所の近況報告や地域住民との情報交換を行っている。議事録を職員が閲覧している。	運営推進会議は利用者や家族等の代表、市担当者、市社会福祉協議会職員、区長、民生委員で2ヶ月に1回開催している。 会議では利用者の状況や運営状況、今後の予定などを報告するとともに、委員から出た運営に関する意見等は職員会議で検討し、サービスの質の向上に活かしている。 委員から「利用者の散歩や外出を増やしてはどうか」との提案を受け、天候に合わせて利用者の散歩の機会を増やすとともに、議事録を職員に閲覧して出た意見等を全職員で共有している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携  市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入退去の状況を市役所に毎月提出している。 待機者の人数状況を定期的に報告している。 市役所主催の集団指導に参加で情報を得る。	入退居数や待機者の状況を定期的に市担当者へ報告するほか、介護相談員を毎月受け入れたり、生活保護の利用者について市担当者と小まめに連絡を取り合うなどして日頃から連携を図っている。 市主催の地域密着型サービス連絡協議会に出席し、意見交換をして協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践  代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	資料を使った研修、施設内に身体拘束に関するポスターを掲示する等を行っている。 事業所のマニュアルに身体拘束を行わない方針、やむを得ず行う場合の手順と行った場合の弊害が記載されている。	身体拘束排除に向けた研修会を定期的に実施したり、身体拘束排除のポスターをエレベーター前に掲示したりして職員は身体拘束の具体的な行為や弊害を理解している。 事業所は3階建ての3階にあり、エレベーターは自由に利用できるが、階段への扉は利用者の安全確保のため、家族等の同意を得て施錠をしている。 やむを得ず身体拘束を行う場合に備え、経過観察記録や再検討記録を整備するまでには至っていない。	やむを得ず身体拘束が必要になった場合に備え、同意書のほか、経過観察記録や再検討記録を整備することを期待する。
7		○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	資料を使った研修を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	資料を使った研修を行っている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は管理者と利用者、家族が相対して読み上げ内容を確認している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	エレベーター前にご意見箱の設置。 運営推進会議に家族を交代で出席してもらう等を行っている。 事業所の御便りにアンケートを同封して家族の意見を求めている。	利用者からは日々のふれ合いの中から、家族等からは面会時や年1回の家族会、家族等へのアンケートで要望や意見を聴いている。 出た意見等を全職員で検討し、共有してサービスの質の向上に活かしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスを週1回開催し、介護に関する意見等を話し合っている。 勤務表を作成する際は希望休や有給の希望を聞いて勤務し易い様に様に配慮している。	管理者は毎週のユニット会議時やいつでも職員と話し合える機会を設け、職員の意見や要望を聞いている。 職員の提案で、服薬漏れがないように服薬時は利用者に薬を手渡しして利用者が薬を飲み込むまで見守りをする方法に改善をしている。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	事業所の目標、方針等を作成して職員の意欲向上を図っている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の年間予定表を作成している。 目標を各自、設定し自己評価をする。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	外部で研修の御知らせが届いた時は職員に周知して参加を呼び掛ける様にしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	声掛け、目配りを欠かさず行う。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメント、相談受付表等を記入して要望を確かめる様にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス担当者会議の実施、相談受付表の作成を行っている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者と共に食事をする、片付けを行う等、共同で生活している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時、毎月の御便り等で生活の様子を報告し状態を把握してもらう事に努めている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの店への同行を職員が行う。 知人との面会を自由に行う等で支援している。 知人に電話や手紙を出す支援をしている。	家族等の協力を得ながら、利用者が入居前より利用している美容室の継続利用や選挙の投票を支援している。 利用者の要望にそって墓参りや親戚の集まりに参加が出来るよう支援をしたり、家族等や友人に電話や手紙で連絡を取りたい場合にも職員が支援をしたりして、利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が継続できるように支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	集団でのレク等を行って入居者同士のコミュニケーションを図っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去した後も、再度の入居の相談等が有れば応じている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	アセスメントシート、相談受付表、サマリー等を読んだり、本人と話したりすることで意向の把握に努めている。	利用者の基本情報から生活歴を把握するとともに、日々の生活の中で、表情や会話から一人ひとりの思いを推し測り、介護日誌等に記載して職員で共有している。 意志疎通が困難な利用者の場合は、普段からの表情や仕草、態度などから利用者の思いの把握に努め、利用者本位の支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントシート、相談受付表、サマリー等を読んだり、本人と話したりすることで生活歴の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録への記入、カンファレンス等で現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成の前に本人、家族、関係者で担当者会議を開催し必要事項を確認する。	介護計画は利用者や家族等の意向を取り入れるとともに、支援経過記録を基に課題を把握し、利用者や家族等、職員で話し合って作成している。 介護計画は3ヶ月毎にモニタリングを実施し、長期目標と短期目標を設定して見直している。 利用者の心身の状態に変化が生じた場合は、随時モニタリングを実施して介護計画を見直している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者の日々の様子、バイタル、排泄、入浴等を個人記録に記入している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設されているデイの利用者との面会家族との外出の協力、ボランティアの受け入れ等を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の商店への買物、社協からの相談のボランティア等を利用している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者に送迎、同行を行い、診察の付き添いを行う事で医療を受ける支援をしている。 対応の可能な家族には掛かりつけ医への受診を行って頂き、情報の共有に努めている。	利用者や家族等の希望するかかりつけ医への受診は、家族等の付き添いが原則となっているが、家族等の都合が付かない場合には、職員が付き添っている。 家族等からは受診結果の報告を受けているほか、電話やグループホーム便りの送付の際に、家族等に受診結果を報告している。 協力医療機関の訪問診療や定期受診を支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携の契約看護師が来所し、入居者の状態チェック、介護職員からの報告、相談を受けている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	介護サマリーの作成等、情報提供等を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の方針を作成している。事業所のマニュアルに終末期の対応の手順が記載されている。	重要事項説明書に看取りの指針を記載し、利用者や家族等に説明して書面で同意を得ている。 事業所は看取りを行う方針ではあるが、開設時から現在まで看取りの経験はない。	事業所は看取りを行う方針で、「看取りの指針」や「終末期ケアの手順書」を作成しているが、重度化や終末期に向けた支援方針を具体化するために職員で協議して明文化し、利用者や家族等と出来るだけ早い段階から話し合う機会を設け、方針を共有することを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	資料を使った研修を行う、事業所のマニュアルや掲示された対処法を読む、等を行っている。		
35	13	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練で地域の方に参加して頂き、利用者の状況や避難経路の把握に努めている。 消防署員に立ち会いを要請し消火器の扱いや防火、避難についてのアドバイスを受ける。 訓練の参加者に反省点を聞いて記録に残す。 夜間火災時の手順書を事務所に掲示している	年2回併設している同一法人の通所介護事業所と合同で消防署立会いのもと、地域住民の参加を得て避難訓練を実施するとともに、実施記録を作成して課題を明らかにし、次の訓練につなげている。 グループホーム独自の避難訓練を実施しているが、避難に要した時間を記録するまでには至っていない。 災害に備えて米や水、非常食等を備蓄しているが、品名や数量、期限等が記載された備蓄品リストを作成し、管理するまでには至っていない。	特に手薄な夜間想定での避難訓練を独自に実施すること、避難に要した時間を記録した報告書を作成したり、品名や数量、期限等を記入した備蓄品リストを作成して管理することを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	事業所の接遇のマニュアルを職員全員が読んで適切な対応を身に付ける。 研修で認知症に付いて学び対応方法を知る。	職員は利用者一人ひとりの人格を尊重し、特に排泄支援ではさり気ない言葉かけや対応に配慮して利用者の尊厳を大切にしながらプライバシーを損ねない対応に努めるとともに、職員はプライバシーに関する内部研修を受講し、認識を深めている。 契約書などの個人情報に関する書類は、事務室の施錠ができる書棚に保管し、取り扱いには十分留意している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛けを多く行い、入居者が思いや希望を表現出来る様にしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	居室で休みたい、レクを休みたい等の希望を受け入れて集団行動を強くない様にしている			
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装は職員が決めずに本人が選ぶ様にしている。 居室にハンガー等を置いて衣類を取り出し易くしている。			

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者への御茶配り、テーブル拭き、食器の片付け等、可能な限り協力し合っている。 咀嚼や嚥下が困難な利用者には副食を刻む、粥やペースト食にする等で食べ易くする。	献立は同一法人の栄養士が作成し、食材は職員が近隣の商店で購入して事業所で調理をしている。 利用者の咀嚼や嚥下状態に合わせて、刻み食やペースト食にするなどの工夫をしている。 職員は利用者と同じテーブルに着き、食事介助や見守りをしながら一緒に食事をしている。 誕生会等の食事は、季節に合わせてちらし寿司や赤飯を楽しんでいる。 利用者は出来る範囲でテーブル拭きや食器の後片付等の役割を担っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の状態によって副食を刻んだり、御飯を粥に変更する等して食べ易くしている		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	協力歯科医の指導を受けて口腔のケアを行っている。 上手く出来ない入居者は必要に応じて職員が介助している。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	入居者の状態に合わせた排泄介助を介護計画に沿って行っている。	職員は利用者一人ひとりの排泄パターンを把握するとともに、個人のリズムに合わせてトイレ誘導を行い、出来るだけトイレで排泄が出来るように支援をしている。 オムツ使用からリハビリパンツ使用に改善した事例があり、職員は利用者がより快適に過ごせるように適切な排泄支援に取り組んでいる。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜類をメニューに取り入れる。散歩をして体を動かす等の予防を行う。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	排泄で体が汚れた時の入浴等、何時もと違う日の入浴も行う。冬至に柚子湯にしたり入浴剤を使用する等して入浴を楽しめる様にしている。	入浴は週3日で午前を基本としているが、利用者の状態によっては足浴や清拭などに変更して対応している。 入浴を嫌がる利用者には無理強いをせず、担当者や時間帯を変えて声かけを行い、気分の良い時に入浴が出来るよう支援をしている。 入浴剤を使用したり、柚子湯などで季節感を取り入れたりして入浴を楽しめるように支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	衣類や寝具、室温調整等を行って眠りやすい環境を行っている。表情等を観察して疲れた様な時は居室に誘導して休ませている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人記録に薬剤情報を挿んで職員が閲覧している。 服薬のマニュアルを読んで適切な服薬の方法を身に付けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	カラオケ、塗り絵、編み物等、個人で趣味や気分転換を行っている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所の散歩やドライブ等を行っている。 家族の協力や職員の同行で買い物等を行う。	利用者の体調に配慮しながら近隣の散歩に出かけたり、近隣のコンビニエンスストアやドラッグストアに買物に出かけている。 敷地内で花や茄子、キュウリなどをプランターで栽培しており、利用者が花や野菜の手入れをしながら自然に外気浴を楽しめる機会となっている。 牛久大仏に初詣に出かけたり、季節感を楽しめるように近隣の水郷公園や乙戸沼公園に花見に出かけたりしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者の状態によって、お金を所持して買い物等を行える様になっている。 認知症の状態によって管理が困難な入居者は職員が管理し台帳に記録している。		
51		○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を自分で操作するのが難しい入居者には職員が電話をかけるのを手伝っている。 手紙を自分で出しに行けない入居者には職員が郵便局に代行して行く等で援助している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングに花を飾ったり、入居者の制作物を展示する等している。 清掃を毎日行い、ゴミや臭い等が出ない様になっている。 日差しが強い時等は職員がカーテンの開閉をする事で暑くなり過ぎないようにする。	居間兼食堂は職員が小まめに温度管理に留意し、快適に過ごせるように配慮している。 居間や廊下の共用空間には季節の花を飾ったり、職員と利用者で制作した七夕飾りなどの季節に合わせた作品を展示したり、ドライブや行事等の写真を掲示したりしている。 利用者同士が会話を楽しめるように、畳敷きのスペースやソファが配置されている。 テーブルの高さは、車いすの利用者が利用し易いように調整している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには座敷やソファを設置する等して自由に過ごせる様にしている。	/	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具の配置は入居者、家族の希望に沿って自由に行っている。使い慣れた物も持ち込み可能と入居前の案内用紙に記載。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーの設計になっている。居室の入り口や、トイレ、職員事務所に表札を付けて迷わない様にしている。	/	

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	1, ほぼ全ての利用者の ○ 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	1, 毎日ある ○ 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ全ての家族と ○ 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている <input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

(様式4)

## 目標達成計画

事業所名 グループホーム永国長寿館

作成日 平成27年1月15日

### 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	35	グループホーム独自の防災訓練を行っていない。 備蓄品の期限の記録不備	訓練の実施 記録の整備	GHのみの防災訓練の計画立案 備蓄品の消費期限ノート作成	12か月
2	6	身体拘束の経過記録や再検討の書式が不備	書式の整備	経過記録や再検討の書式作成	12か月
3	33	看取りの方針が不十分	方針の明確化と共有	職員間で話し合いを実施する	12か月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。